

関東農政局 栃木県拠点の 取材日誌

おじゃま
しました。

サツキ苗木配布で広がる交流 ～ 地域と育む鹿沼の花 ～

栃木県立鹿沼南高校

取材日：令和7年5月24日

鹿沼市花木センターで開催された「第54回鹿沼さつき祭り」において、鹿沼南高校環境緑地科の3年生が、同校で育てたサツキ苗木の無償配布を行いました。

同校は、鹿沼市の市花であり特産品でもあるサツキの栽培実習を行い、地域との交流の取組として、毎年、生徒たちが育てたサツキを「鹿沼さつき祭り」において配布しています。

配布されるサツキの苗木は、環境緑地科の生徒たちが1年生当時に挿し木をして増やし、2年間育てたものです。

配布当日は、200本のサツキの苗木が用意されましたが、用意した本数以上の受取希望者の行列が出来て大盛況となりました。



苗木がトラックで運び込まれます



苗木を一本ずつ包装



看板を設置して配付開始



長蛇の列が出来ました

生徒たちがサツキの苗木を1本ずつ手渡しする際、苗木を受け取った来場者からは、「ありがとう。これからも続けてください」と声を掛けられていました。

サツキの苗木の配布を終えた生徒は、「皆さんにお渡ししたサツキの苗木は、私たちが手作業で除草などを行い、大切に育ててきました。受け取ってくれた方々にも大切に育ててもらいたいです」と話していました。

サツキ苗木の配布は、生徒たちにとって、栽培技術の習得だけでなく、地域とのつながりを実感する貴重な機会となっています。



大切に育ててくださいと手渡し

オリジナル日本酒造りにチャレンジ ～ 自分たちで育てた米から日本酒造り～

栃木県立鹿沼南高校

取材日：令和7年5月26日～12月22日

栃木県立鹿沼南高校食料生産科作物分会の3年生12名は、今年度、水稻品種「ゆうだい21(※)」を使ったオリジナル日本酒造りにチャレンジしました。

栃木県拠点では田植えから商品として販売されるまでを取材しました。

田植え 取材日：令和7年5月26日



端まで丁寧に植えていきます



苗を補充して、準備完了



曲がらないように、慎重に

生徒がが交代で乗用田植え機に乗り、田植え作業を行いました。
田植え機の操作が終わった生徒は、畦きわの手植えを行い、裸足で入る田んぼの感触に歓声を上げていました。

稲刈り 取材日：令和7年9月22日



手刈りに挑戦



作業を終えて、記念撮影

雨の影響で田んぼがぬかるむ中、稲を手刈りして、約1haの田んぼから約60俵(約3600kg)が収穫されました。

カメムシ防除をドローンで行ったことから、これまで以上の出来となりました。

※「ゆうだい21」とは・・・宇都宮大学が開発した水稻品種です。

食味が良い一方、草丈が長くなり倒れやすく栽培が難しい特徴があります。

このため、鹿沼南校と同大学農学部とで、栽培技術の確立に向けた共同研究を行っています。



麴づくり 取材日：令和7年10月16日

蒸した「ゆうだい21」を広げて適温に冷まし、種麴を振りかけて均一に混ぜる作業を行いました。

混ぜ終えた米は、麴菌が繁殖しやすい環境の麴室で麴菌が増えるのを待ちます。



米の蒸し工程



均等に混ぜて、作業終了



種麴散布作業

店頭販売 取材日：令和7年12月22日

純米大吟醸「鹿南貳拾壱（かなん21）」と名付けられ、完成、販売となりました。

ラベルや販売チラシも自分たちで作成した力作で、鹿沼市内のスーパーで生徒たち自ら販売を行いました。

味はフルーティーでやや辛口。酸味もあって和食、洋食どちらにも合うそうです。

生徒からは「20歳になったら、一緒に作った仲間たちと飲みたい」とコメントがありました。



販売チラシ



いよいよ販売スタート



お買い上げありがとうございます



販売終了。ありがとうございました

田植え実習「縁結び」を手植え ～ 農業委員会の方々が田植えをサポート～

栃木県立矢板高校

取材日：令和7年6月6日



目印に合わせて田植えスタート



バランスが勝負！踏ん張って苗を植えます



山並みを映す水田、田植え日和の風景



田植え終了後は、
農業委員会のみなさんと記念撮影

矢板高校農業経営科の1年生28名が、同校水田において、3年生8名（作物専攻生）と矢板市農業委員会の委員の皆さんの指導を受けて、稲（品種：縁結び）の手植えによる田植えを行いました。

1年生は、初めて素足で水田に入るといふ生徒も多く、最初は、水田の泥の感触に、おっかなびっくりの様子でしたが、田植えが始まると、一緒に並んで手植えする農業委員の皆さんから「苗が浮かないように丁寧だね！」などと声を掛けられながら、3年生が張った田植え紐を目印に、真剣に植えていました。

田植えを終えた生徒は、「米作りはやりがいがあって楽しいです。進路は農業大学校への進学を考えており、将来は稲作をしている実家を継ぎたいと思っています」と、笑顔で話してくれました。

矢板市農業委員会の渡邊浩正会長は、「実家が農家ではない生徒も多い中、今日の田植えは、生徒たちにとって貴重な経験であったと思う。生徒たちには、農業経営科の授業を通して、収穫の喜びと農業のやりがいを感じてもらいたい。将来は、農業に携わってくれると嬉しい」と生徒たちに希望を寄せていました。

大学教育と高校教育の交流

～ 農高生が大学の最先端の研究内容を学ぶ ～

宇都宮大学農学部主催 アグリカレッジ

取材日：令和7年6月14日



カタクリ群生地



少花粉スギの育成試験地



宇都宮大学の頭文字「U」を象った植え込み



座学での講義

宇都宮大学が平成16年度から取り組んでいるアグリカレッジは、栃木県内の農業高校（7校）の生徒を対象に、就学意欲を高め、21世紀の農業の担い手や地域リーダーを育てることを目的に、大学の先進的な研究内容等を学んでもらう高大連携の取組です。

取材を行った第5回講義「私たちの暮らしと森林とのかかわり」は、塩谷町にある宇都宮大学農学部附属演習林において開催され、高校2年生33名が受講しました。

演習林内では、大島潤一准教授から案内を受け、カタクリ群生地や「ナラ枯れ」の病原菌であるナラ菌を媒介する「カシノナガキクイムシ」防除の様子、少花粉スギの育成試験地などを見学しました。

座学講義では、国内の「ナラ枯れ」発生地への推移、発生の仕組み、防除方法や我々の暮らしにおける森林の役割などの説明を受けました。

受講した生徒からは、「大学農学部への進学を希望しています。アグリカレッジについては、大学ならではの先進的な研究内容に触れられる機会であると思い受講しました。今日、学んだ事を高校での授業にも活かしたいと思います」などの感想がありました。

巨大キャベツで出前授業

～ 農業の楽しさを小学生に～

栃木県立馬頭高校

取材日：令和7年7月9日



出前授業の教室の様子



巨大キャベツは中身もぎっしり



手渡して体感する、巨大キャベツの迫力



野菜も食べて力持ちになりました

馬頭高校では、地域に貢献できる人材として生徒の意識付けを図り、より一層の地域貢献活動を推進することを目的として、地元小学生との授業交流を行っています。

今回は、那珂川町立馬頭小学校において、馬頭高校普通科の選択科目「野菜」の3年生9名が先生となり、小学2年生24名を対象に出前授業「巨大キャベツってどのくらい重いの？」を行いました。

授業では、馬頭高生が、巨大キャベツの種まきから収穫までの様子をモニターに映して説明した後、収穫したばかりの巨大キャベツを小学生たちに抱えてもらうと、小学生たちは、自分の顔の2倍以上もある大きさと、1個4kgの重さに驚きの声をあげていました。

馬頭高生が「みんなは、野菜を育てて収穫することは楽しいと思う？」と聞くと、小学生たちからは「楽しそう！」「やってみたい！」と声があがりました。

授業の後半では、レスリング部の馬頭高生が、「野菜も食べて強くなろう！」と、一度に二人の小学生を高く持ち上げるデモンストレーションを行うと、小学生たちからは歓声が上がり、終始、小学生たちを飽きさせない授業となりました。

最後に、馬頭高生の代表が、「作物の種をまき、育て、収穫して、みんなに食べてもらうまでが農業です。農業を学んでいる私たちは、みんなに地元産の野菜を食べてもらえると嬉しいです」とまとめると、小学生たちからは、教室中に響く声で「はいっ！」と返事がありました。

林業を学ぶ特別授業

～ 林業の魅力を高校生に ～

栃木県立矢板高校

取材日：令和7年7月15日



チェーンソーを手に取り説明する講師



授業にはTV局も取材に来ました



木工加工は、やすり掛けの音が響きます



無心でやすり掛け・・・

栃木県林業労働力確保支援センターの企画により、林業について高校生に興味を持ってもらうため、矢板高校農業経営科2年生29人を対象に「林業を学ぶ特別授業」を開催しました。

授業では、栃木県矢板森林管理事務所職員から「栃木県の林業について」や「栃木県林業大学校について」の説明・紹介がありました。

このあと、やいた里山倶楽部による「地域の林業について」の説明・活動紹介と、木材加工（スプーン制作）の実習が行われました。

生徒たちは、大まかにスプーンの形に切り出された木材を紙やすりを使い形を整え、保護オイルを塗る作業を体験しました。

参加した生徒たちは「スプーン作りは、やすりの掛け方が難しかったですが、楽しく仕上げることができました。講話では、林業が環境保全や地域産業の発展に役に立っていることを知り、林業について興味がわきました」と話していました。

この授業を通じて、生徒たちは林業の役割や可能性を実感し、地域と自然を守る仕事への関心を高める貴重な体験となりました。



完成した木製スプーン

測量技術を競う高校生たちの熱戦 ～ 県内5校から代表17名の生徒が参加 ～

栃木県学校農業クラブ連盟 平版測量競技会

取材日：令和7年8月7日



競技会に参加した生徒の皆さん



チームワークで図面を作成します



図面から面積を算出します



教室に電卓をたたき音が響きます

栃木県学校農業クラブ連盟（※1）の平版測量競技会（※2）が、鹿沼南高校を会場に開催されました。

当日は雨天となったため、野外での競技は中止となり、一部内容を変更して、校舎内の教室において競技が行われました。

この競技会には、宇都宮白楊高校、鹿沼南高校、小山北桜高校、栃木農業高校、真岡北陵高校の5校から代表17名の生徒が参加し、学校ごとに編成された5チームが、課題の座標値に基づき、スピーディーかつ誤差なく図面を作成できるかを競い合いました。

会場には複数の審査員が立ち会い、否が応でも緊張感が漂う中、生徒たちは定規等を駆使して図面を作成し、面積の算出では生徒が制限時間のギリギリまで幾度も電卓をたたいて、慎重に面積を求めていました。

力を出し切った生徒たちは、無事、競技を終え、緊張感から解放されて笑顔で記念撮影をするなど、ほっとした様子でした。

審査委員長の鹿沼南高校の橋本校長先生からは、「本日の競技会は会場や競技内容の変更がある中、生徒の皆さんには臨機応変に対応してもらえた。授業の中で学んでいる測量技術や知識を、今後の進路選択にも活かせるものとしてほしい」と、生徒たちへの期待を込めて講評がありました。

※1 学校農業クラブ連盟とは？

「学校農業クラブ（SAC：School Agriculture Club）」は、1948年に戦後の新制高等学校の学習活動の中で、農業高校生の自主的・自発的な組織として日本各地で誕生しました。

「日本学校農業クラブ連盟（Future Farmers of Japan：略称 FFJ）」は、1950年に日本全国の農業クラブの全国組織として結成されました。

全国組織の下に関東地区学校農業クラブ連盟、栃木県学校農業クラブ連盟があり、栃木県内7校の学校単位にそれぞれ学校農業クラブがあります。

学校農業クラブでは、全国の農業を学ぶ高校生が農業クラブ員として、農業に関する教科・科目の学習や地域連携活動など、体験的な学習を通して「科学性」「社会性」「指導性」を高めることを目的としています。

また、日本学校農業クラブ連盟全国大会は、農業クラブ員が日々行っている各専門分野の活動について、活動の成果を発表する場として毎年秋に開催されています。この大会は、各地の県大会、ブロック大会で優秀な成績を収めた全国の農業高校生が、成果発表などを行う「農高生の甲子園」と呼ばれています。

～各競技会の紹介～

（写真は以前開催された栃木県学校農業クラブ連盟大会のもの）



【プロジェクト発表会】

プロジェクト活動で実践したことや成果を発表し、客観的な意見や評価を受け、その内容や発表の仕方について審査されます。



【家畜審査競技会】

決められた時間内に実際の牛の良し悪しを審査基準に基づいた審査により順番付けしていく競技です。



【フラワーアレンジ競技会】

花材を使い、コンセプトにあった作品を時間内に完成させます。栽培技術だけでなく、活用方法やデザインに関する学習の成果を競い合います。

※このほかにも平版測量競技会、鑑定競技会などがあります。

※2 平版測量競技会とは？

各高校の1チーム3名が、平版や三脚などの測量用具を用いて測量を行い、地形の図面を迅速かつ誤差なく作成できるかを競います。



野外での平版測量競技会の様子

スマート農業を学ぶ

～ 農業用ドローンの実演授業 ～

栃木県立馬頭高校

取材日：令和7年9月11日



校庭での講義の様子



ドローンの重さを体験



農業の代わりに水を積み込みます



水を使っての散布実演

馬頭高校の普通科選択科目「野菜」及び「農業と環境」の生徒21名が、農業用ドローンのライセンス教習などを行っている講師から、農業におけるドローン活用の説明を受け、農業用ドローンの飛行実演を見学し、スマート農業について学習を深めました。

講師からは、「農業用ドローンは、作物の生育状況の確認、稲などの種まきも可能であり、近年、農業において人手不足が問題となっている中、農作業の効率化、省力化に向けて、スマート農業技術の一つとして、更に普及が見込まれる」と説明がありました。

飛行実演の見学では、生徒たちが、農業用ドローンを持ち上げて、約40kgある機体の重さを体感した後、講師による実演操作で、田んぼに見たてた校庭に、全自動で水を散布しました。

生徒たちは、人力による噴霧器の散布で1時間程度かかる面積を、農業用ドローンが3分もかからずに散布する様子に驚くとともに、ドローン本体価格やメンテナンス方法など、具体的な質問を積極的にしていました。

祖父が那珂川町で稲作をしている生徒は、「将来的にもっと機体の価格が安くなったり、レンタルによる利用などができるようになれば、是非、農業用ドローンを使って祖父の稲作を手伝いたいです」と話していました。

JICA研修員と国際交流

～ 世界と日本をつなぐ学びの場 ～

栃木県立宇都宮白楊高校

取材日：令和7年9月18日



研修員たちを前に測量の実演です



視察の合間の記念撮影



研修員たちに英語で説明しています



交流会の様子

宇都宮白楊高校では、JICA筑波（国際協力機構筑波センター）からの視察要望を受けて、稲作技術を学んでいるアフリカ諸国の研修員13名と国際交流を行いました。

今回の視察は、同校として「世界と日本をつなぐグローバル教育」の一環として受け入れ、実習や農場の見学を行い、生徒が日頃の学習内容を英語で説明しました。

説明を終えた生徒の一人は「私たちが、課題に一生懸命取り組んでいることを伝えることができたと思います」と話していました。

農場見学後の交流会では、生徒たちがアフリカ諸国の文化や農業に関する情報に興味深く耳を傾け、互いに交流を深めました。

研修員からこの学校を選んだ理由を質問された生徒たちは、「将来、動物に関わる仕事に就きたいため、動物の飼育などを学べるこの学校を選びました」、「梨農家の実家を継ぎたいため、果樹栽培を学べるこの学校を選びました」などと、通訳を交えて答えていました。

また、生徒たちからも研修員たちへ母国に関する質問がなされ、アフリカ諸国の竹の利用や、カカオの生産状況などについて、研修員たちが説明していました。

今回の交流は、生徒たちにとって、世界の農業や文化に触れながら、自分たちの学びを発信し、国際社会とのつながりを実感する有意義な時間となりました。

育てた食材で「秋の収穫祭」 ～ 農産物の収穫を祝う祭祀行事を体験 ～

栃木県立真岡北陵高校

取材日：令和7年11月13日



火起こしに苦労しています



収穫を祝ってバーベキュー開始



上手にご飯を炊き上げます



ご飯は、当然、大盛りです

真岡北陵高校では、生徒たちに農産物の収穫を祝う祭祀行事を体験してもらい、農業の大切さを学ぶとともに、食べ物への感謝の気持ちを育てることを目的として、毎年「収穫祭」を開催しています。

当日は、やわらかな曇り空が広がる中、学校の田んぼを会場として、農業関連学科の生徒120名が参加しました。生徒たちは、学校の田んぼで収穫したコシヒカリを、学科ごとに釜で炊き、炊き立てのご飯の香りが広がる中、自分たちで育てた野菜や豚肉をバーベキューにして味わいました。

収穫祭の準備を中心になって進めてきた同校農業クラブ会長は、「バーベキューの火起こしは毎年大変ですが、それも楽しい時間です。食材は全部、自分たちで育てて収穫したものなので、本当においしいです」と話していました。

収穫祭は、生徒たちにとって、農業の大切さを学ぶとともに、仲間との絆を深める素敵な一日になりました。



お釜のご飯は、
あっという間になくなりました

生徒たちが育てた農産物を販売 ～ 生徒の学びを地域へ届ける農産物即売会 ～

栃木県立那須拓陽高校

取材日：令和7年11月22日



販売ブースには長蛇の列



野菜の袋詰めに大忙しです



シクラメンの販売也大盛況!



野球部員がお客の荷物運びをお手伝い

那須拓陽高校では、毎年、農業関連学科の生徒たちが育てた野菜や花、実習で作った加工品を販売する「農産物即売会」を開催しています。

同校農場を販売会場に、大根、ネギ、白菜、シクラメン、パウンドケーキ、味噌などの販売ブースの前には、販売開始前から地域住民や生徒の保護者など約100人以上が列を作り賑わいを見せていました。

花火の合図で販売がスタートすると、生徒たちは笑顔で来場者に商品を手渡し、裏方では袋詰めや在庫補充に追われる姿が見られました。

野菜を購入した来場者からは「生徒さんが育てた野菜は立派でとてもおいしそう。農産物即売会は生徒のみなさんと交流できるのも楽しみです」との声が聞かれました。

会場設営を担当した同校農業クラブ会長は、

「即売会開催までの準備は大変ですが、後輩に引き継いでいきたいです。私たちが育てた農産物などを、多くのみなさんに食べてもらえるのがうれしいです」と話していました。

農産物即売会は、生徒たちにとって、地域との交流を深め、日頃の学習成果を披露する貴重な機会となっています。



マスコットキャラクターも登場
右：拓（たく）ちゃん、左：陽（ひなた）ちゃん

酪農の最新技術を高校生が体験 ～ 牛の活動情報をリアルタイムに確認 ～

栃木県立宇都宮白楊高校

取材日：令和7年12月19日



宇都宮白楊高校農業経営科の生徒50名が、北海道中標津町でITや、搾乳ロボット等を活用して牧場を経営する会社から講師（株式会社ファームノートデイリープラットフォーム 代表取締役 平 勇人 氏）を招き、高収益性と持続可能性を両立した、酪農の最新技術について学習しました。

授業では、中標津町の牧場の様子がライブ中継され、750頭以上の牛を管理するオートメーション化された牛舎や、ITを活用して体調管理された健康的な牛の様子が紹介され、生徒たちは感嘆の声を上げていました。

生徒たちは、講師から「日本の酪農は、少数の酪農家で多頭管理をする現状となっており、今後の酪農経営にはITやIoTを含めた新しい技術の活用が不可欠である」と説明を受けるとともに、中標津町の牧場で飼われている牛群管理ができるアプリを各自のスマートフォンで操作し、牛一頭一頭の活動情報をリアルタイムで確認する体験をしました。

授業を受けた生徒は、「実家は100頭ほどの牛を飼って酪農をしています。ITを活用した牛の体調管理について、早速、酪農をしている親に紹介したいです。私は酪農を継ぎたいと考えており、今日の授業の内容は、たいへん参考になりました」と、将来の酪農経営に希望を寄せていました。

学んだ技術で特大門松を製作 ～ 特大門松を飾って新春を迎える ～

栃木県立小山北桜高校

取材日：令和7年12月22日



見映えを確認して植え込み
ます



わら縄を結んで完成間近

小山北桜高校の食料環境科環境創生コースの生徒24名が、2学期の終業式に合わせ、同校正門に特大門松を設置しました。

同校では毎年、新年を迎えるにあたり特大門松を製作しています。

生徒たちは、担当教員から、飾りに使用する竹や黒松、赤松、紅梅、南天、クロガネモチなどについて、それぞれの縁起や意味の説明を受けた上で作業を開始しました。

愛用の剪定用具を身につけた生徒たちは、日頃の授業で学んだ技術を活かしながら、見映えを確認して植え込み作業を進め、最後に竹をわら縄でしっかりと結び、特大門松を完成させました。作業に当たった生徒は、「縁起物の意味を知った上で作業をしました。野外での作業は楽しいです」と話していました。

完成した高さ約2.5メートルの特大門松は始業式まで飾られ、凜とした佇まいで、同校の正門前に新春の風情を添えていました。



特大門松を製作した生徒の皆さん



立派に完成した特大門松